

バス、タクシー等旅客事業者向け点呼セミナー2021
“旅客運輸業界のこれから～点呼業務とDX化 オンライン3社鼎談～
アンケート集計結果から浮かびあがる旅客IT点呼の今後のニーズ

IT点呼機器及び業務用アルコール検知器を開発・販売する東海電子株式会社(本社：静岡県富士市 代表取締役：杉本 哲也)は、この度、旅客運輸事業者・運行管理者向けウェブセミナーを、(株)工房、(株)システムオリジンとともに共催致しました。アンケート結果についてお知らせ致します。

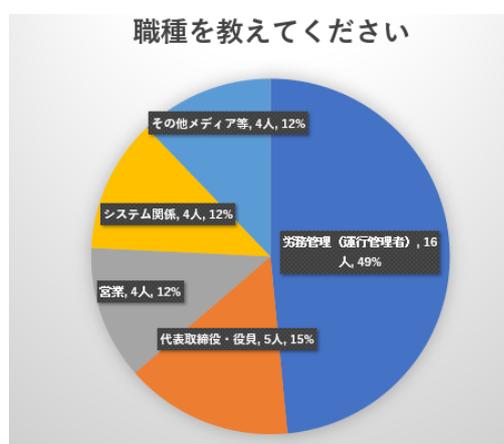
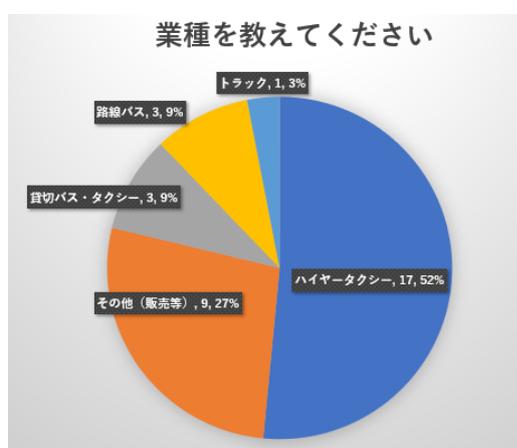
1. バス、タクシー、トラック、3業種向けシステムメーカー3社共催

バス業界で30年間ITシステムを展開している(株)工房、タクシー業界で39年間ITシステムを展開している(株)システムオリジン、トラック業界や鉄道業界に18年間飲酒運転防止装置を展開している東海電子(株)、この3社にて旅客業界におけるIT点呼システムや点呼自動化(無人点呼化・ロボット点呼化)等、点呼業務とDXをテーマとしたセミナーと、3社によるパネルディスカッションを行いました。100名以上の方にご視聴頂きました。



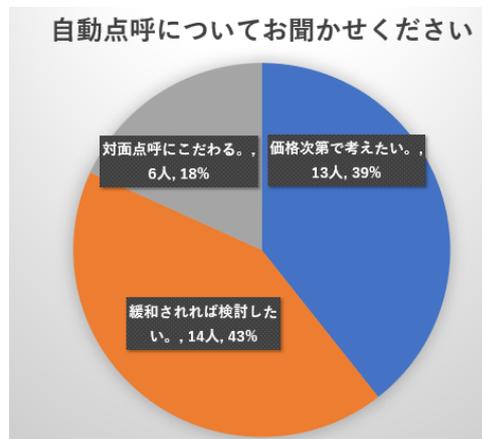
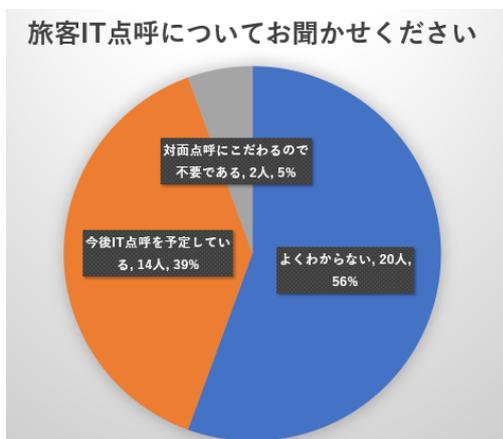
2. アンケート結果から読み取れる、IT点呼の緩和ニーズ

約3割の方にアンケートを頂きました。



今回のテーマのひとつでもある「旅客IT点呼」についてお聞きしたところ、「よくわからない」との回答が56%であり、旅客事業者内での認知度、理解度が低いことがわかりました。

一方で、旅客 IT 点呼を予定していると回答した方が 39% でした。対面点呼にこだわるという回答が 5% と少なく、旅客事業者様におかれては、労働生産性観点とコロナ渦という 2 つの現実の課題に対して、「対面同等」と割り切り、ひとつの選択肢として捉えていることがうかがえます。



また、ロボット点呼、点呼の機械化・自動化についても、価格次第、緩和次第、という回答が 8 割を超えていることから、いわゆる、自動化・高度化・DX 化への期待が強くあるようです。



旅客 IT 点呼は現在、「車庫と営業所間」および優良な事業者でなければ実施できない規則となっています。運行管理高度化検討会や、物流施策大綱でも緩和の方向性が示されていますが、問題は中身です。

事業者側のニーズは、やはりというか、出発、帰着時刻がいわゆる「定時」ではない運行が多いためか、「24時間いつでも IT 点呼

OK」がトップでした、ついで「営業所ではない本社、本部、管理部点呼」でした。その他アンケート結果は以下をご参照下さい。

<旅客点呼セミナー2021 7月8日度開催 アンケート メディア向けリリースキット>
アンケートの回答の拡大版はこちらで詳細をご確認ください。

https://www.tokai-denshi.co.jp/app/usr/downloads/file/1165_20210714090132_download_file.pdf

本件に関する問い合わせ先：東海電子株式会社 営業企画部
東京都立川市曙町 2-34-13 オリピック第3ビル 203
E-mail: kikaku@tokai-denshi.co.jp
<http://www.tokai-denshi.co.jp>